

形成外科 研究業績 (2017年)

学会発表(教育・特別講演、シンポジウムを含む)

- 1
 - ① 見目和崇、奥野友孝、上野一樹、中山真紀
 - ② 脳梗塞後の痙縮、関節拘縮が原因の褥瘡に対する腱切離術の経験
 - ③ 口演
 - ④ 第22回日本形成外科手術手技学会
 - ⑤ 東京
 - ⑥ 2017年2月18日
 - ⑦ 脳梗塞後の上肢の痙縮、関節拘縮により生じた褥瘡では保存的なコントロールが困難となることもある。このような症例における腱切離術の有用性について症例を供覧し報告した。

- 2
 - ① 中山真紀、見目和崇、上野一樹、奥野友孝
 - ② 重症下肢虚血患者に対する経皮吸収型持続性疼痛治療剤(フェントス®テープ)による疼痛緩和著効例の経験
 - ③ 口演
 - ④ 第115回関西形成外科学会学術集会
 - ⑤ 大阪
 - ⑥ 2017年3月5日
 - ⑦ 重症下肢虚血患者は他の血管疾患を合併し、その生命予後は不良であるため、虚血性疼痛の軽減を含めた集学的治療が大切である。フェントステープを用いて積極的に疼痛コントロールを図りQOLの改善を得た症例を経験した。

- 3
 - ① 見目和崇、奥野友孝、上野一樹、中山真紀
 - ② 壊死性軟部組織感染症に対する外科的デブリードマン
 - ③ ポスター
 - ④ 第60回形成外科学会総会・学術集会
 - ⑤ 大阪
 - ⑥ 2017年4月12-14日

⑦ 壊死性軟部組織感染症の治療では、外科的デブリードマンが予後を左右する重要な手技になる。当科で経験した16例に対してデブリードマンの時期や回数などを調査し、当科の方針とあわせて報告した。

- 4 ① 中山真紀、見目和崇、上野一樹、奥野友孝
② 当院におけるAtypical lipomatous tumorの検討
③ 口演
④ 第60回形成外科学会総会・学術集会
⑤ 大阪
⑥ 2017年4月12-14日

⑦ Atypical lipomatous tumor(異型性脂肪腫性腫瘍)は高分化型脂肪肉腫と同義語であり、脂肪肉腫の中では最もよくみられる低悪性度の腫瘍であり、外科的切除が基本となる。当科にて過去1年間で経験した5症例につき検討した。

- 5 ① 上野一樹、最上裕之、中山真紀、見目和崇
② 下腿コンパートメント症候群に合併した壊死性軟部組織感染症の一例
③ 口演
④ 第44回兵庫県形成外科医会研究会
⑤ 神戸
⑥ 2017年5月2日

⑦ コンパートメント症候群に伴う下肢壊死性軟部組織感染を合併した1例を経験した。広範囲な壊死を生じたが、集学的な治療を行い、救命・救肢に成功した。

- 6 ① 上野一樹、見目和崇、野々村秀明、中山真紀、奥野友孝
② 近位型カルシフィラキスに対するチオ硫酸ナトリウムの使用経験
③ 口演
④ 第9回日本創傷外科学会総会・学術集会
⑤ 岐阜
⑥ 2017年7月6-7日

⑦ カルシフィラキスは、透析患者を中心に発症し有痛性紫斑に続く難治性皮膚潰瘍を主症状とする疾患である。本疾患1例に対し、本邦未認可のチオ硫酸ナトリウムを使用し疼痛の軽減を認めたが、第35病日永眠した。

- 7 ① 中山真紀、見目和崇、上野一樹、奥野友孝
② NPWTが有用であった化膿性胸鎖関節炎の経験
③ 口演
④ 第9回日本創傷外科学会総会・学術集会
⑤ 岐阜
⑥ 2017年7月6-7日

⑦ 化膿性胸鎖関節炎は非特異的な症状により診断が遅れ、骨髄炎や縦隔炎、敗血症となる危険性がある。当科にて経験した2症例とも壊死組織のデブリードマンと抗生剤投与を行い陰圧閉鎖療法併用し創閉鎖を得た。

- 8 ① 浅井優子、見目和崇、中山真紀、最上裕之
② 当院で経験した副耳下腺腫瘍の一例
③ 口演
④ 第31回神戸形成外科集談会
⑤ 神戸
⑥ 2017年10月9日

⑦ 副耳下腺腫瘍は比較的に稀な疾患で、悪性腫瘍が多い。外科的切除ではステノン氏管や顔面神経損傷の危険性がある。S状切開によるアプローチは視野が十分に確保され、合併症の発生を抑え、腫瘍摘出を容易にする。